

決戦兵器考案ニ関スル 作戦上ノ要望



1942年8月、参謀本部作戦課作成。日本本土よりアメリカ本土を直接攻撃するため、超遠距離爆撃機とともに太平洋横断可能な「特殊気球(フ号装置)」の開発を要望している。(防衛研究所蔵)

風船爆弾製造に動員された女学生



(当館所蔵)

大陸命第千百六十二号 「特殊攻撃ニ関スル件」



1944年10月25日、風船爆弾によるアメリカ本土攻撃についての天皇命令。(防衛研究所蔵)

風船爆弾作戦と本土決戦準備 — 女の子たちの戦争 —

今から80年前の1944(昭和19)年～1945年の時期に、登戸研究所は、日本陸軍が強い期待をかけた風船爆弾の開発・製造に全力を挙げていました。陸軍は、この兵器を戦争の勝敗を決する「決戦兵器」と位置付け、アメリカ合衆国本国に大打撃を与えられるものと考えていました。1発あたり数十kgの兵器積載能力しかない風船爆弾に何を搭載しようと考えていたのか。当初は対人細菌兵器が構想されていたようです。後には米国の食糧生産に打撃を与える「牛痘ウイルス」の搭載が準備されましたが、結局は通常の爆弾・焼夷弾になりました。風船爆弾は、1944年11月から1945年4月にかけて9300発が発射されました。それがどのように計画され、多数の女学生たちを動員して製造され、どのような結末になったのか、なぜ陸軍は風船爆弾に強くこだわったのかを明らかにします。

また、風船爆弾作戦が実施された時期には、本土決戦の準備が本格的に進められていました。日本陸軍と登戸研究所は、本土決戦に際してどのような戦いをしようとしていたのか、本土における遊撃戦(ゲリラ戦)はどのように構想されていたのか、また、敗戦に際しての証拠隠滅の指示など、残された資料から詳細に検証します。

『国民抗戦必携』表紙



1945年4月、大本営陸軍部発行。米軍の本土上陸に備え、国民向けに肉弾戦や手榴弾を使った攻撃などをわかりやすく解説している。表紙には登戸研究所の受領印や篠田所長の回覧印が押印されており、登戸研究所が所蔵していたことがわかる。(信州戦争資料センター所蔵 X @himakane1 note <https://note.com/sensou188/>)

婦人達が竹槍訓練(長町国民学校校庭)



1943～1945年頃撮影。(仙台市民映像資料プロジェクト制作「よみとき仙台写真集」<https://photo-sendai.com/> 所蔵)

特殊研究処理要領(複製)

国際法に触れる可能性がある陸軍研究機関に対し、1945年8月15日に証拠隠滅を命じた電報のメモ。一番に風船爆弾関連と登戸研究所について証拠隠滅を命じている。陸軍省軍事課新妻清一作成。(防衛研究所蔵「新妻清一蔵文書」複製版より)

関連イベントのご案内

企画展展示解説

会期延長に伴い、館長山田朗による企画展展示解説も追加開催いたします。

要 事前予約

内容：山田朗(明治大学平和教育登戸研究所資料館館長、明治大学文学部教授)が参加者と展示を巡りながら企画展の見どころを解説します。

日時：2025年6月14日(土)、6月28日(土) 14:00～15:00
7月12日(土)、8月30日(土) 10:00～11:00 (全4回)

定員：20名(申し込み先着順)

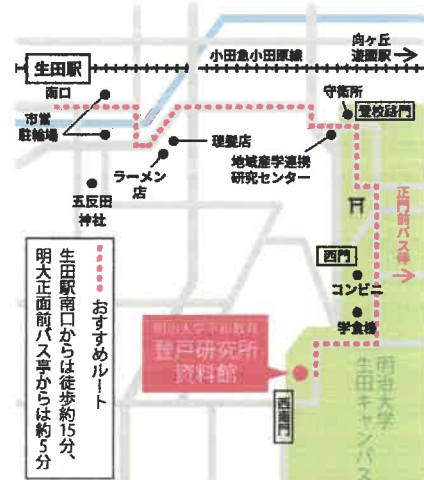
申込方法：開催日2日前までに①参加希望日、②参加人数、③代表者連絡先を添えて下記お問い合わせ先から二次元コードコードよりお申し込みください



※メールの場合はタイトルを「企画展展示解説申込」としてください
※メールでお申し込みの場合、要開館日以内に当館より申し込み確認メールを送信します。当館からのメールが届かない場合、迷惑フォルダに振り分けられている可能性がありますので「noborito@mics.meiji.ac.jp」からのメールを受け取れるよう設定をお願いします。

アクセス

小田急線生田駅南口徒歩15分/向ヶ丘遊園駅北口より小田急バス「明治大学正門前」行終点下車



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

お問い合わせ

明治大学平和教育登戸研究所資料館

TEL/FAX 044-934-7993 E-mail noborito@mics.meiji.ac.jp

登戸研究所や風船爆弾関連資料を収集しています。詳細な情報でもお知らせください